
新型コロナウイルス感染症にかかる 県内の感染動向等について

対象期間 4月4日～4月10日

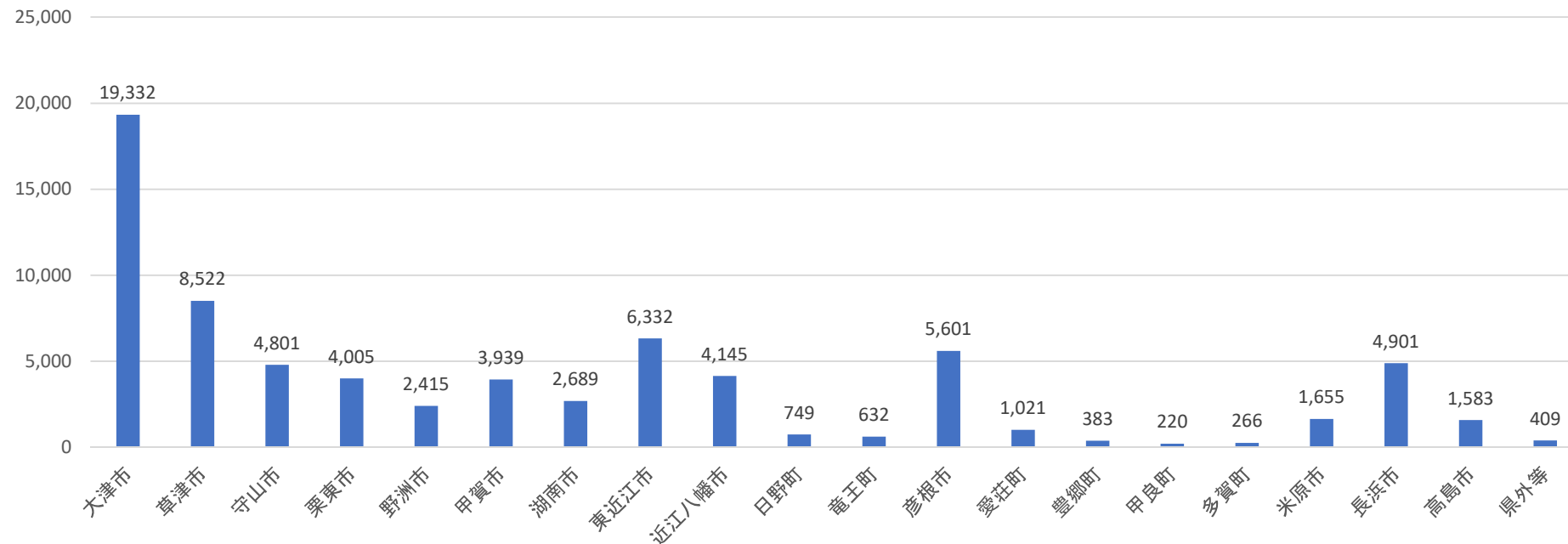
4月12日 健康医療福祉部感染症対策課

1、県内の感染状況について

1) 県内の陽性者発生状況

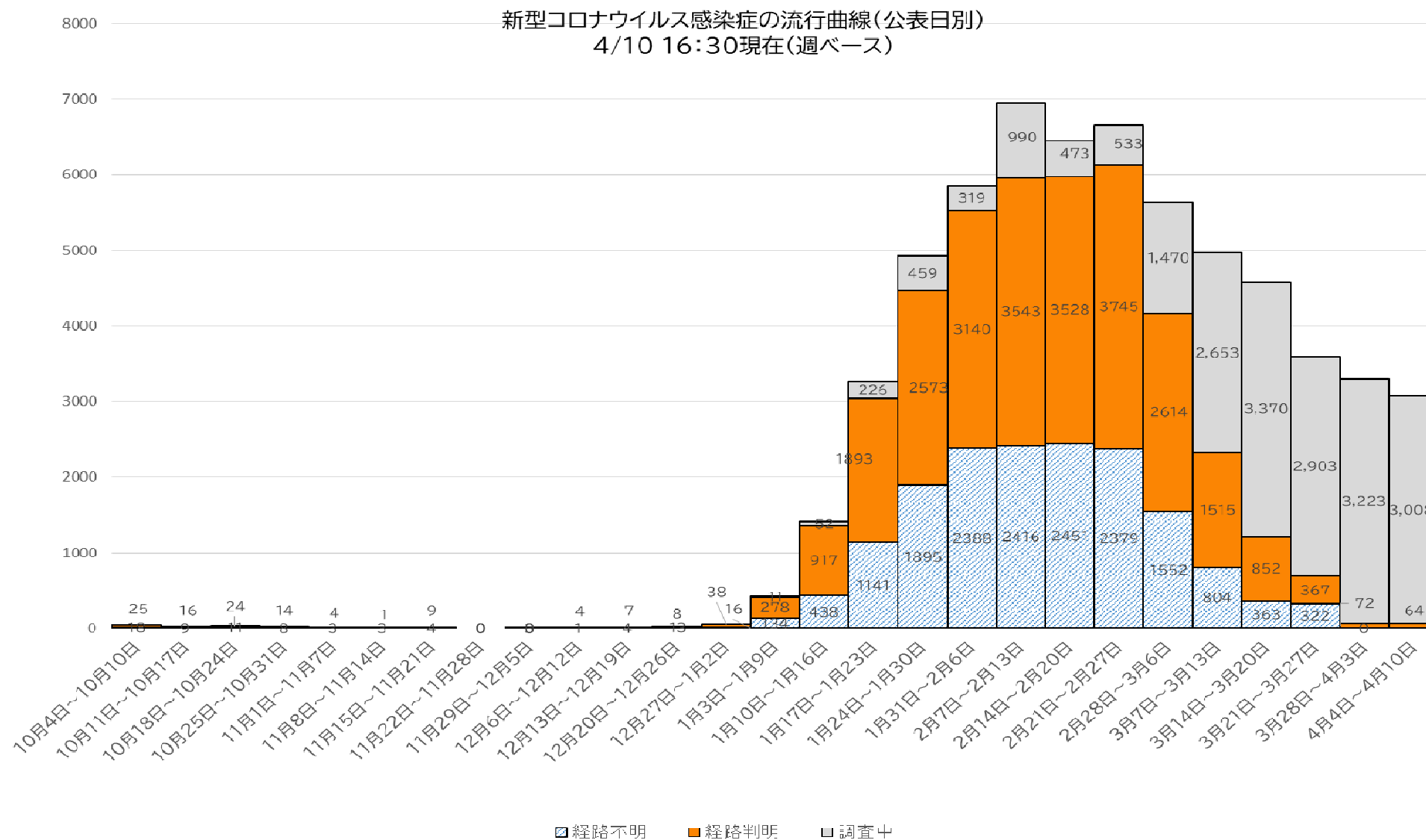
	新規感染者数
今週の報告数(4/4~4/10)	3,072人
累計(4/10時点)	73,600人

2) 市町別の累計陽性者発生状況



3) 県内の感染動向

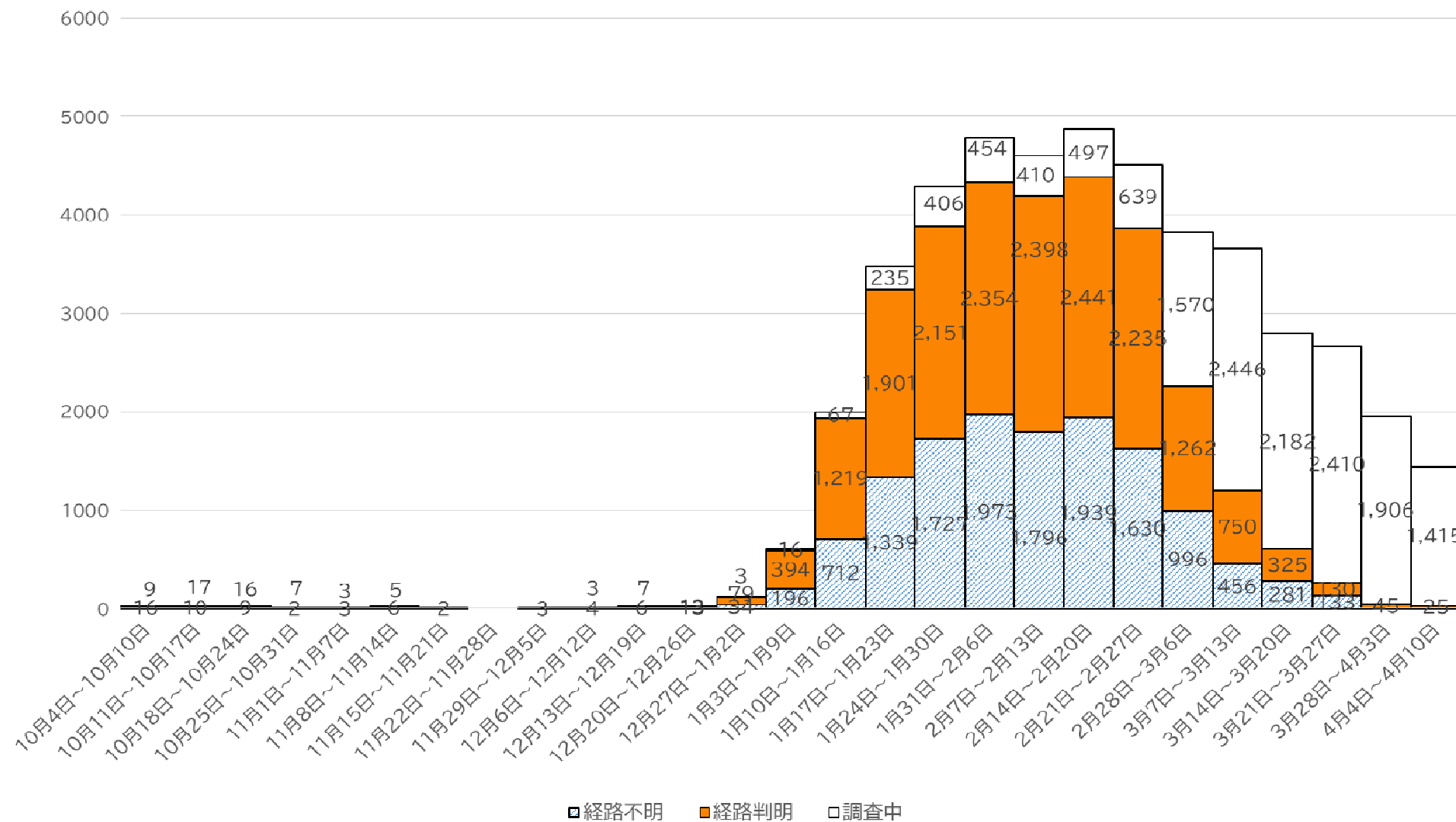
① 流行曲線(公表日別)(4月10日現在)



流行曲線：感染症の流行を経時的に観察し、流行の特徴を把握することができます。

②流行曲線(発症日別)(4月10日現在)

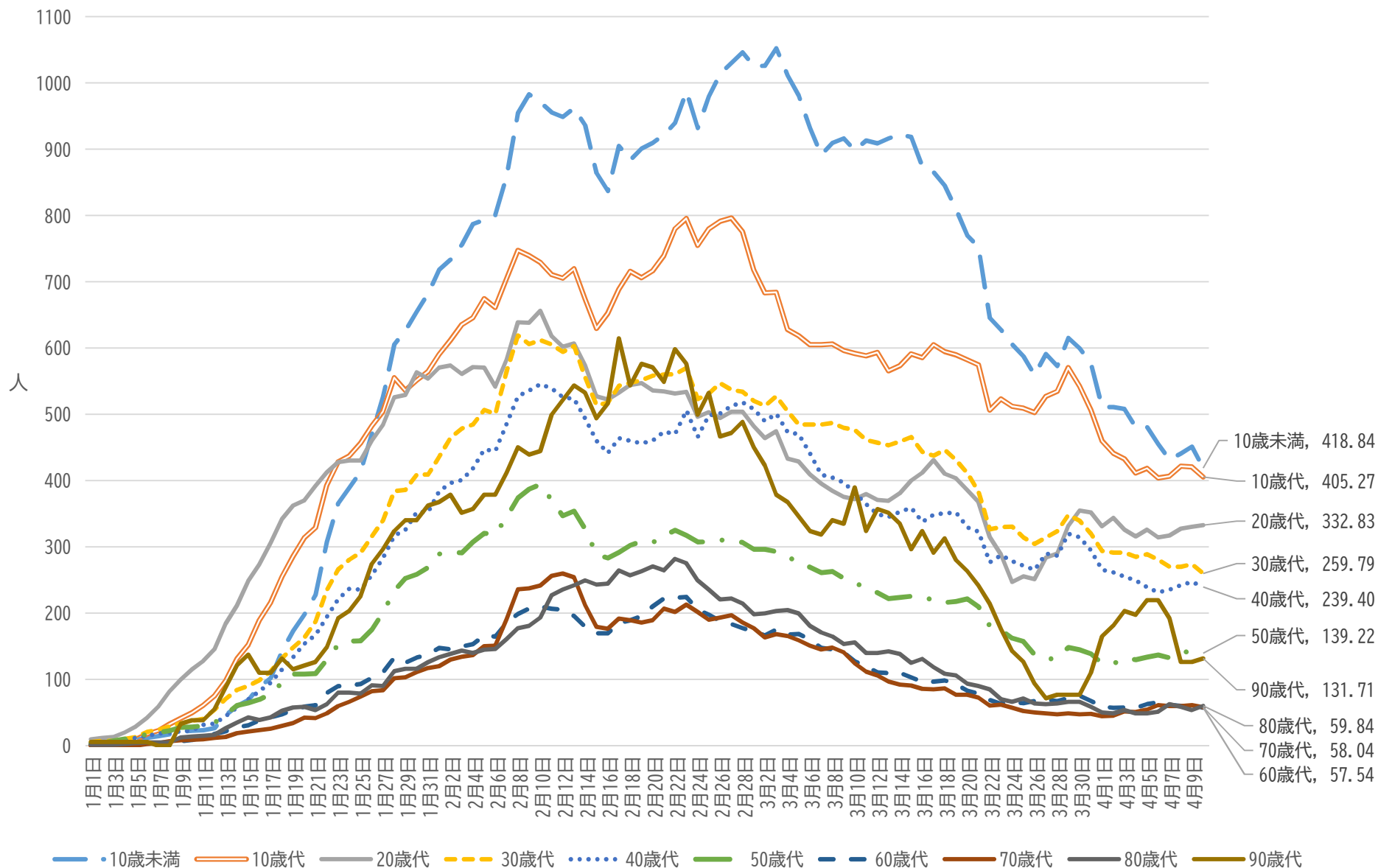
新型コロナウイルス感染症の流行曲線(発症日別)
(無症状者は除く)4/10 16:30現在(週ベース)



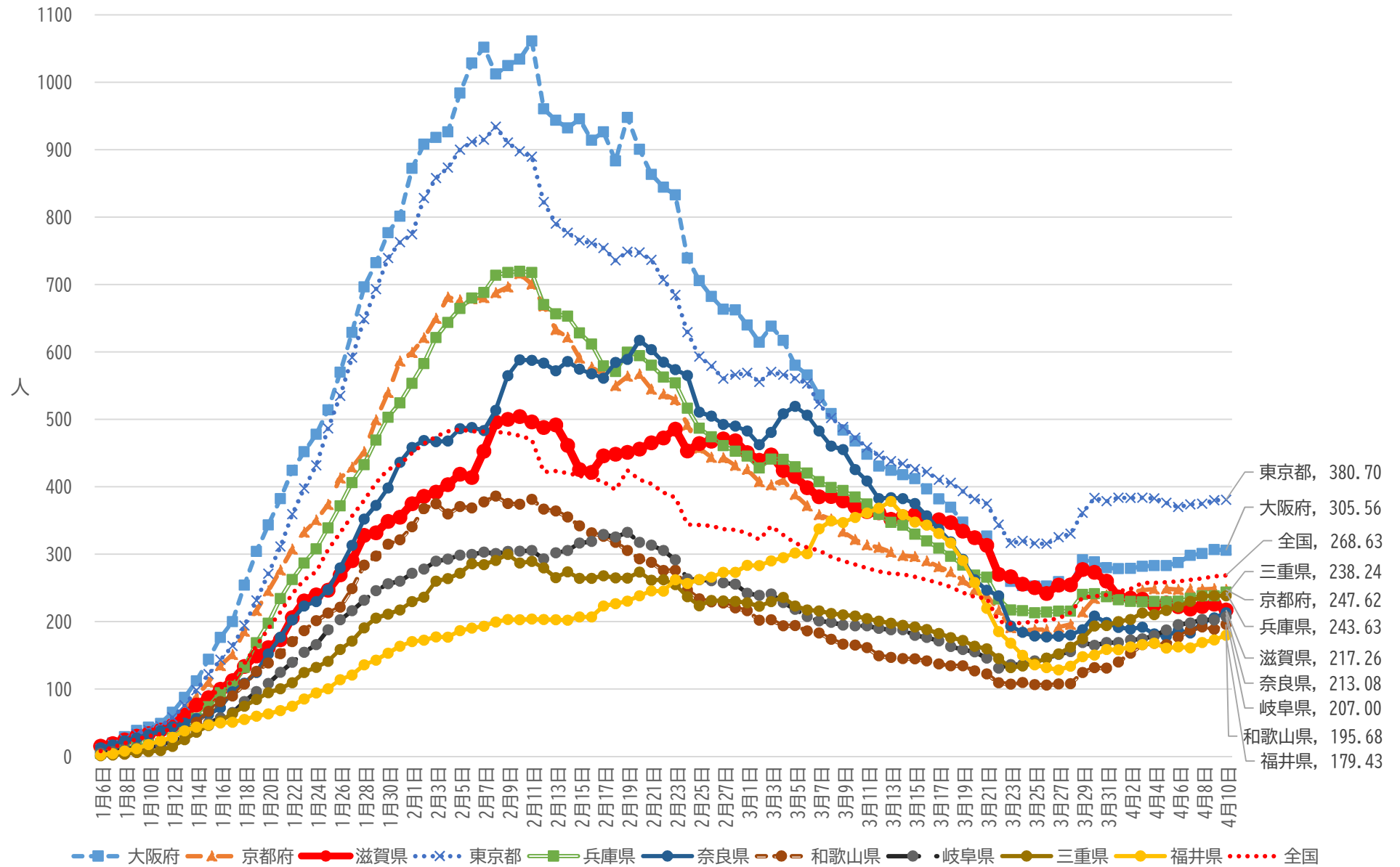
注)無症状者を計上していません。今後4/10以前に発症した患者が届出されることがあります。

4) 年代別 10万人あたりの新規感染者数推移

(公表日 直近7日間の累計患者数) (R4.1/1 - 4/10)



5) 近隣府県等の10万人当たりの新規感染者数の推移 (直近7日間の累計患者数) (R4.1/1 - 4/10)



2、県内の感染状況と体制について(4/10現在)

1) 県内の病床数および宿泊療養施設の状況

	県内 病床数					県内 宿泊療養 部屋数					
		入院者数	空床数		療養者数		清掃・修 理待ち	空数			
			県内発生	その他					県内発生	その他	
総数	500	134	116	18	366	677	113	111	2	67	497

2) 県内の陽性者発生状況

項 目	陽性者数累計	現在 陽性者数					入院予定等	宿泊 療養	退院等	死亡					
			入院中			入院予定等									
			重症	中等症	軽症										
PCR検査数	352,766	4,499	116	0	28	88	4,272	111	68,902	199					
(うち行政検査分	154,809)										73,600	(うちPCR検査判明分	45,412)	(うち自宅待機	281)
(うちその他検査分	197,957)										(うち抗原検査判明分	28,188)	(うち自宅療養	3991)	
抗原検査数	183,844														

重症：人工呼吸器またはECMO(体外式膜型人工肺)が必要

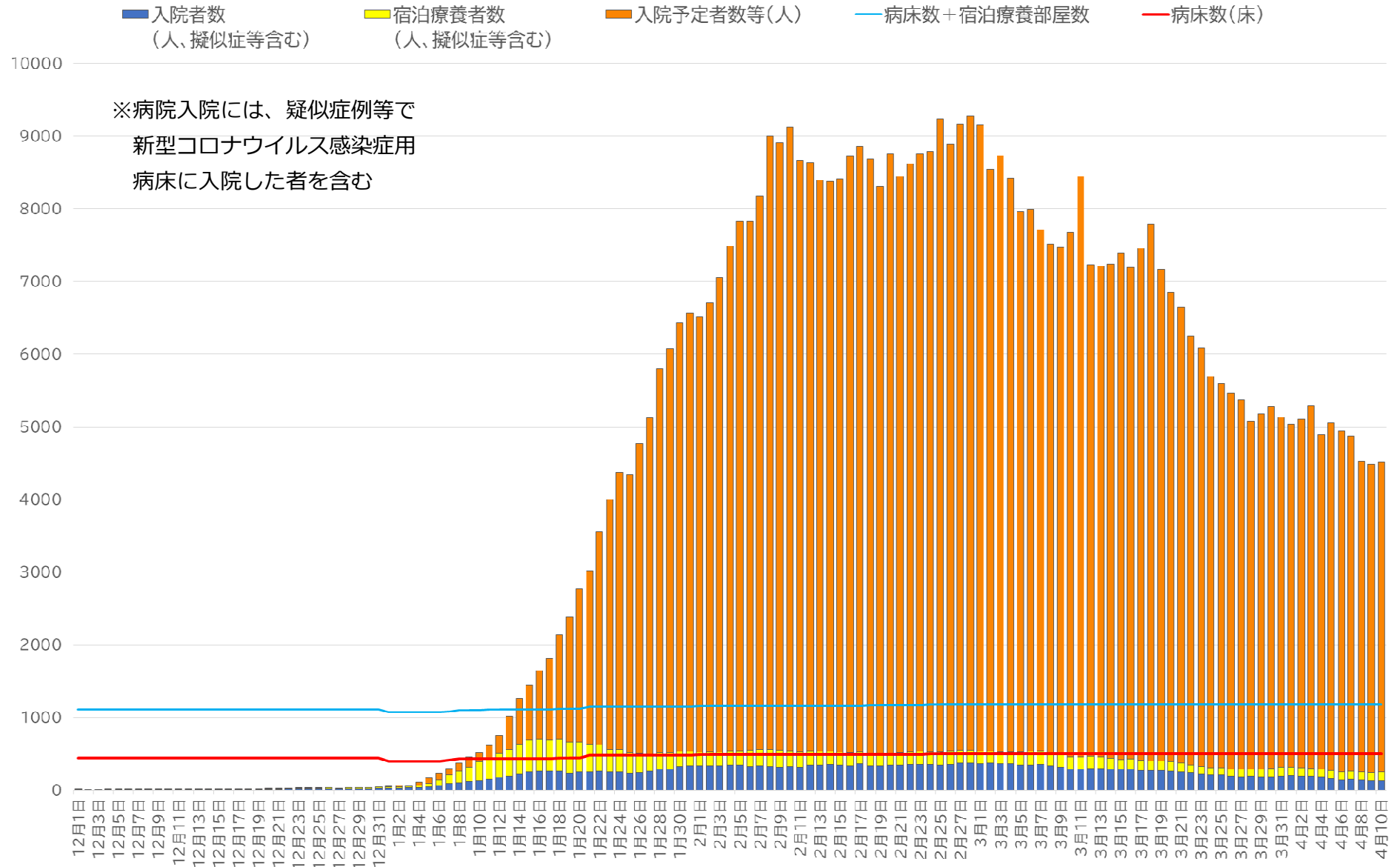
中等症：酸素投与が必要または摂食不可能

軽症：無症状または酸素不要、摂食可能

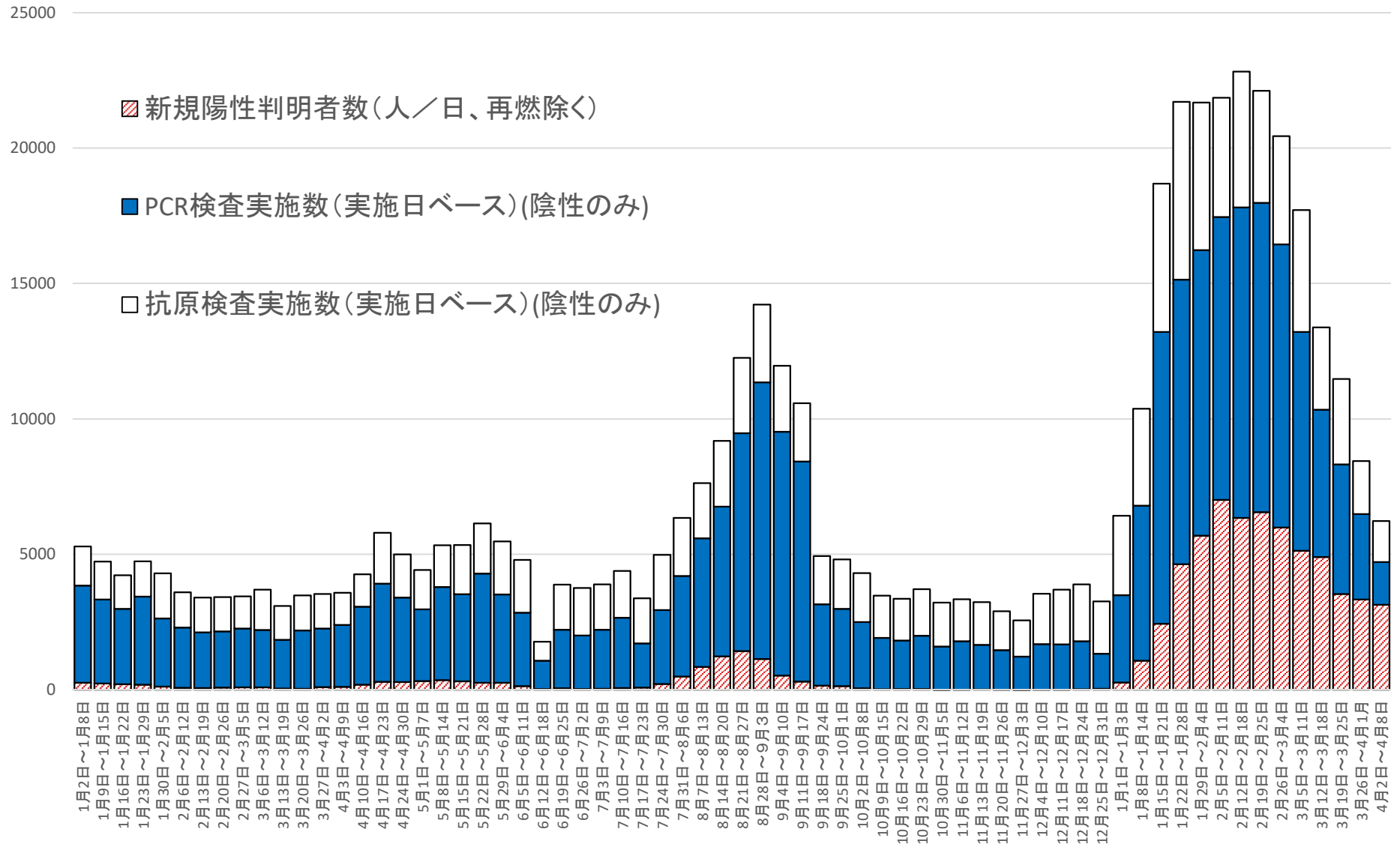
重症者以外のICU(集中治療室)利用者数

0人

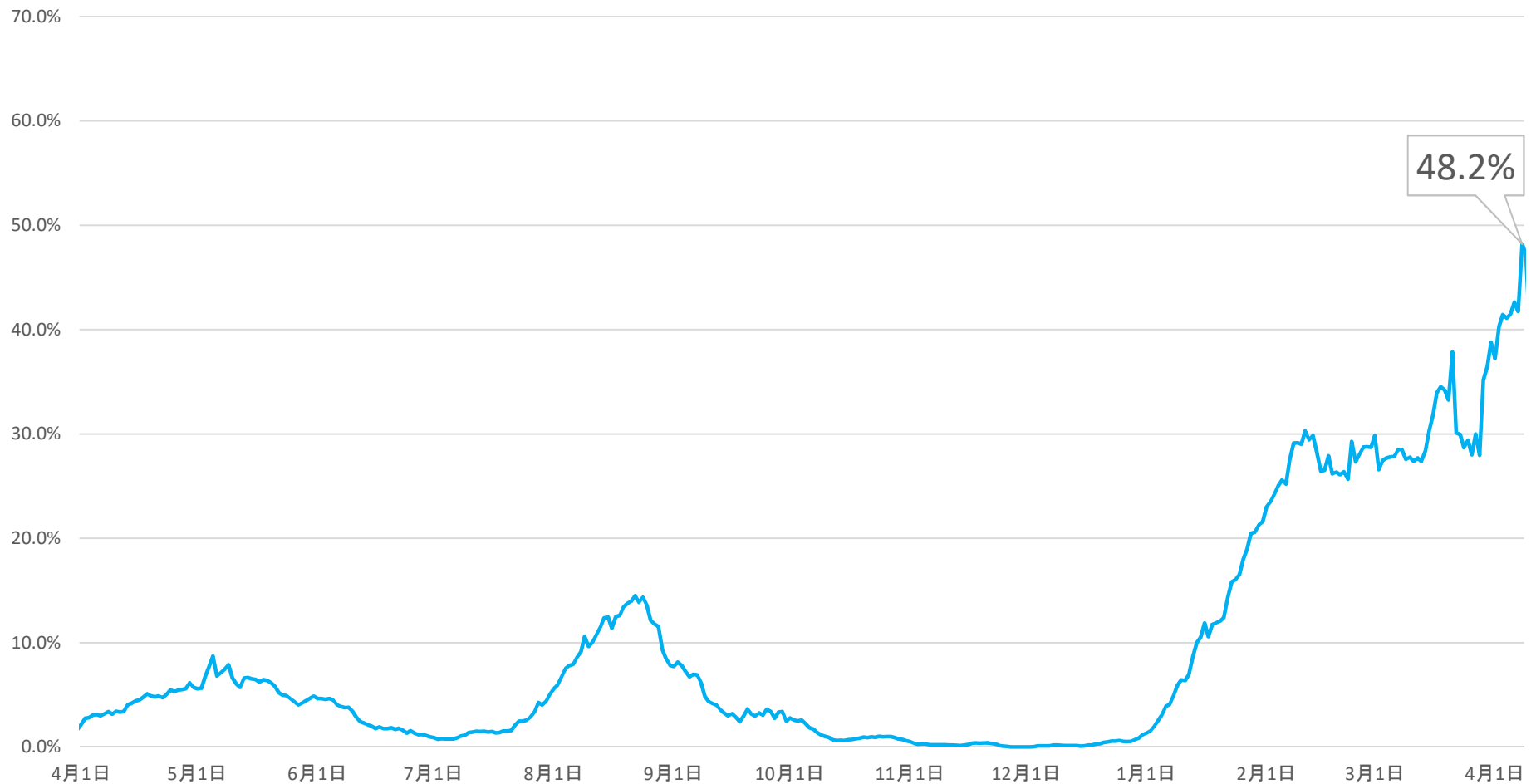
3)入院医療体制について



4)PCR等検査の状況(陰性確認を除く)



5)陽性率(7日間移動平均)

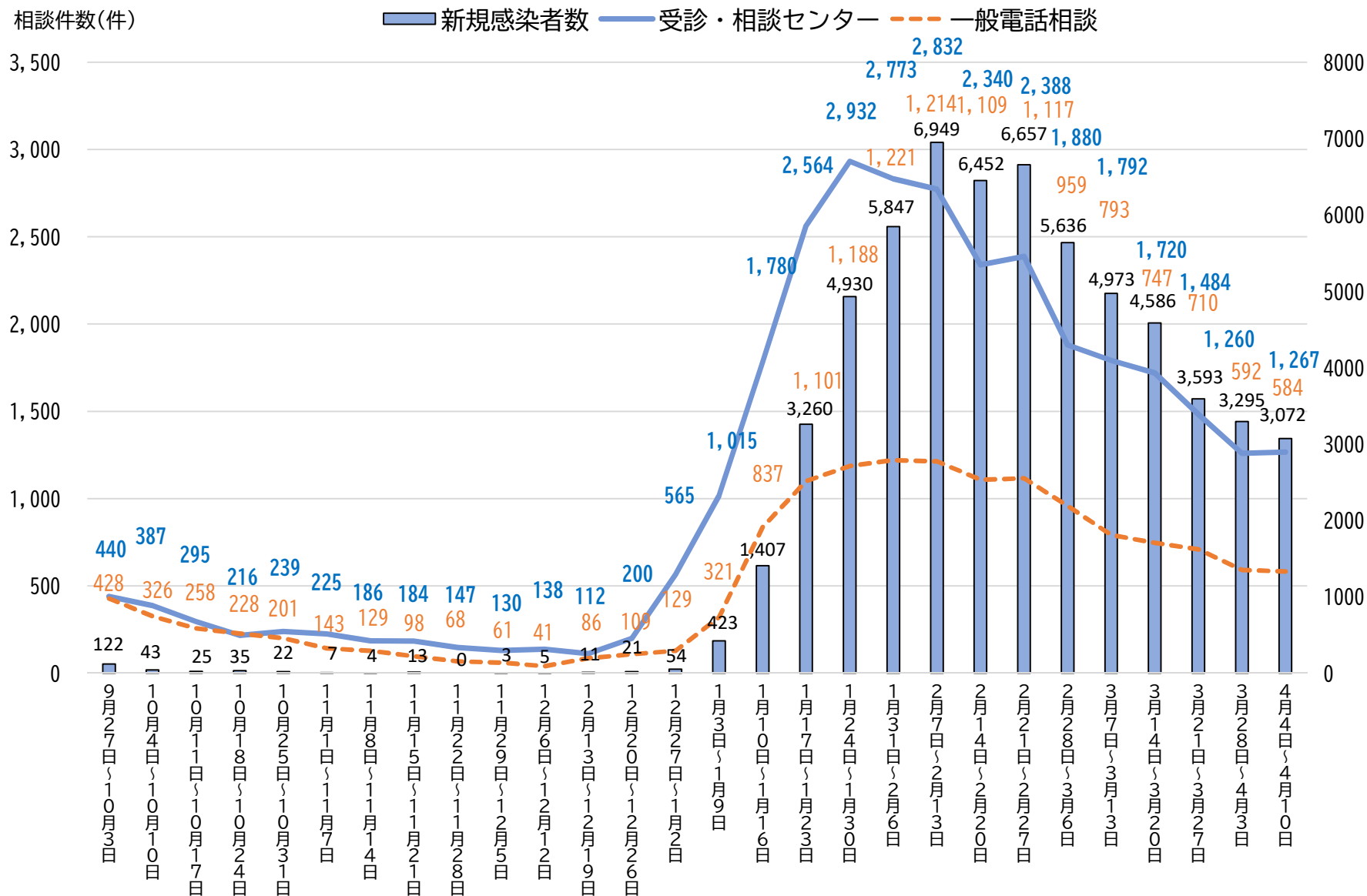


- 陽性率の7日間の移動平均（その日までの7日間の平均）を見ると、4月8日現在の陽性率は48.2%でした。

6) 相談体制について

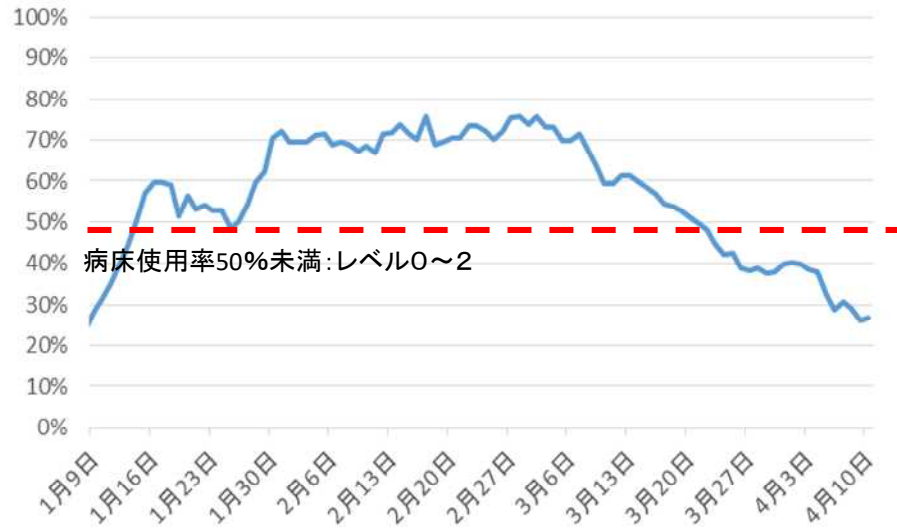
相談件数と新規感染者数（週計）

新規感染者数(人)



7) その他の県内の感染動向

現時点の確保病床数の占有率



重症者用病床の現時点の確保病床数の占有率



人口10万人当たりの全療養者数



直近1週間における人口10万人
当たりの新規報告数



評価(4/4~4/10の感染状況)

- 本県における今週の新規陽性者数は先週と比べて0.93倍と6週連続で減少していますが、減少速度は非常に緩やかで、未だ3000人を超え高止まっています。病床使用率は20%台で、重症者用病床は低い値で推移しています。この減少傾向を確かなものにするため、対策の継続をお願いします。
- 全国の新規陽性者数は、先週比1.08倍と増加傾向となっています。年代別では、全ての年代で増加傾向に転じており、特に10~20代の増加が顕著です。地域別にみると継続的に増加している地域もある一方で、横ばいの地域もあります*。増加傾向が大きくなりバウンドにつながらないよう今後の動向に注視が必要です。
- 新年度を迎え、今後もこれまでと異なる接触機会が増加します。去年は4月頃に新規感染者数が増加していることから注意が必要です。家庭内を含め日常生活において、手洗い、同居する高齢者や基礎疾患を持つ方と会話する時のマスク着用、常時換気や密の回避など基本的な感染対策は緩めることなく、「うつさない」「うつらない」行動を心がけてください。
- 医療機関や福祉施設等で陽性者が療養する場合であっても確実に治療を提供できるように、嘱託医や協力医療機関と事前に調整しておくことが必要です。また、65歳以上のワクチン接種は進んでいますが、65歳未満の接種が少ない状況です。若い年代のワクチン接種を進めることも重要です。
- 高齢者や基礎疾患を持つ方と接する方は、基本的な感染対策の徹底・強化が必要です。高齢者は他年齢層よりも重症化率が高く、早期に3回目のワクチン接種を受けることを推奨します。また、新規陽性者の多くを占める小児と接する大人や保護者が3回目の接種を進めることも重要です。 (*令和4年4月6日新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボードより)